

いちじくで一億円の産地づくり～淡路の取り組み～

淡路地域のいちじく産地は栽培面積7.2㌥(未成木園含む)。2009年度のいちじく部会(21戸)出荷額は4千7百万円である。北淡路農業改良普及センターでは、有利販売可能な品目として産地規模の拡大を目指し、淡路市、洲本市、淡路日の出農協、南淡路農業改良普及センターと連携して、“いちじくで一億円の産地づくり”に向けて様々な取り組みを行っている。

品質向上により今後も期待できる“いちじく”

当普及センターでは、県立農林水産技術総合センターで開発された“透湿性白色シートマルチ”(写真)による品質向上技術の展示・実証を2006年から行ってきた。生産者からもマルチ資材の敷き方について様々なアイデアが出され、現場で生かされてきた。マルチを敷き難い構造のいちじく果樹棚も多くあるが、2009年にはひょうごの果樹・茶産地振興事業を活用し、マルチ敷設面積が1.1㌥(成木園の26%)を超え、着色等品質の向上によりいちじくの出荷単価アップに寄与している。

また、2006年、2007年に部会員全員が重量選果機を導入し、出荷いちじくの品揃えも向上した。この結果、年次変動はあるもののマルチの導入による品質向上と合わせて、いちじく部会の出荷単価が上昇してきた。(図)

産地規模の拡大推進

産地規模の拡大による安定供給は生産者自身にも有利に働く。既存生産者は植栽面積を拡大し、1戸あたり30㌥と、他地域に比べて栽培面積は大きい。



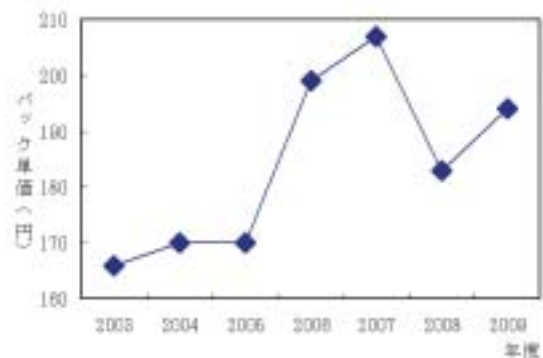
淡路地域で導入された透湿性白色シート

また、産地規模の拡大には新規栽培者の増加が欠かせないため、既存生産者が中心となって「いちじくは期待できる品目である。」と口コミで広め、いちじく部会主催の新規栽培講習会を開催している。講習会には新規植栽希望者が50人以上集まり、いちじく生産に対する地域での関心は高い。

関係機関の支援策としては、2009年度にJA、淡路市、普及センターで構成するいちじく産地拡大推進チームを結成し、新規栽培者の探索を行ってきた。新規植栽が見込める農家をリストアップし、推進チーム員が直接勧誘したり、JA機関誌への記事の掲載や啓発用パンフレットの折り込みを入れ、多くの人の関心を高める取り組みを行った。その結果、2010年4月までに新たに3㌥余りが植栽された。

2010年度からは産地競争力強化総合対策事業(推進事業・果樹)を活用して産地拡大推進チームの活動を洲本市も含めた広域に拡大させ、“いちじくで一億円の産地づくり”を目指して、産地拡大に向けた取り組みを強化している。

川上 信二(北淡路農業改良普及センター)
(問い合わせ先 電話:0799-62-0671)



いちじく部会出荷単価の推移